

議会報告会 質疑・意見一覧

整理 番号	質疑・意見	回答	委員会
1	市議会議員は個人か、公人か。	市議会議員は「公人」として認識している。	企画総務 委員会
2	周南市の主な取組とモデル地区の取組の紹介では、 検証すると説明したが、どのような手法か。	中心市街地では、点在していた公共施設を駅周辺に集約し、商業機能の強化と合わせて、市民の交流がどのように生まれるかを検証した。その結果、賑わいの創出につながったと報告されている。郊外・中山間地域では、高齢者福祉や子育て支援の充実を目的に、公民館の再配置を行い、地域コミュニティが維持できるかを検証している。現在も進行中だが、比較的良好な意見が寄せられている。 いずれの取組においても、市民の理解を得るため、まんが資料の配布、市広報での周知、市民説明会の開催など、丁寧な情報提供に努めている。	企画総務 委員会
3	検証結果は市民に説明されているか。 取組については、いつからいつまで行われているか。期限が明示されていない。	取組の開始・終了時期が明確に区切られているわけではない。地域の理解を得ながら、着実かつ円滑に進めることを重視しており、市民とともに検討しながら進めている。 具体的には、 ・平成27年度から長穂地域モデル事業として、地域の方々とワークショップを7回開催 ・平成29年度から和田地域モデル事業協議会を開催 といった形で、継続的に地域と協働している。	企画総務 委員会
4	周南市の抱える問題は。	人口減少と少子高齢化の進行、市街地の空洞化、市街地の拡大による人口密度の低下ととらえている。	企画総務 委員会
5	周南市はPFI事業を活用、西尾市は反対。周南市を参考にするならば、PFI事業に賛成ととらえてよいか。	PFIそのもの——民間の資金・経営能力・技術力を活用し、効率的・効果的に質の高い公共サービスを提供するという本来の手法——を否定するものではない。	企画総務 委員会
6	神戸市の災害対策で、アプリの活用はよいが、災害時混雑する電波環境において実際に使えるか。埼玉の自治体では、この点の対策としてスターリンクの活用を検討しているが、知っているか。	災害時に実際どの程度アプリが使えるかは、状況によって異なるため不確定である。そのため、防災無線をはじめ、多様な手段を確保するよう準備している。 スターリンクについては認識しているが、西尾市としては現時点で整備されていない。ただし、行用町にある西三河南部地域のゼロメートル地帯広域防災活動拠点には、愛知県が整備していると聞いている。	企画総務 委員会
7	災害蓄電池を開発し、沖縄の離島に導入実績のある者として、災害時に災害現場にEV自動車がいけない事実はどう考えているか。	災害対応は、それぞれの自治体が地域特性に応じて検討すべきものである。沖縄の離島の事例を我々が意見する立場にない。	企画総務 委員会

議会報告会 質疑・意見一覧

整理 番号	質疑・意見	回答	委員会
8	公共施設の面積を削減すると、防災時の避難所が少なくなるのではないか。	公共施設の統廃合により施設数が減れば、避難所の数も減ることになる。ただし、老朽化した施設や重複している施設を整理することで、安全性の高い避難所を維持することが重要である。また、民間施設の活用も進めており、例えば「きら温泉組合」と協定を結び、災害時には避難所として利用できる体制を整えている。	企画総務 委員会
9	生駒市立病院の民間委託制度をモデルケースとするならPFI事業に賛成していると捉えていいのか。	26年連続赤字という西尾市民病院の厳しい経営状況の中、PFIとは異なり土地・建物を市が保有し運営のソフト面のみを民間に委ねる生駒市の「公設民営方式（指定管理者制度）」の先進事例を参考に、公益性と経営性を両立させ市民の命と安心を守るための「未来への選択肢」として、最適な制度設計に向けた議論を深めていく段階にある。	厚生環境 委員会
10	生駒市民病院の医師確保については委託先が担っているのか。	生駒市立病院の医師確保については、指定管理者である徳洲会がその広大なネットワークや医局人事を活用して全面的に担っており、奈良県総合医療センターとの連携による将来的な人材確保にも注力することで、現在は小児科常勤医5名の確保や二次救急・産科医療の充実といった確かな成果を上げている。	厚生環境 委員会
11	今回の視察で得られた多くの知見やアイデアを今後の市政に反映させるために、西尾市民病院における指定管理者制度の検討に向けて、厚生環境委員会としてどのようなアクションプランを考えているか。 (残された委員会の任期は半年だが、継続的に検討を続けるために特別委員会の設置を考えているか。)	今回の視察で得られた知見やアイデアについては、西尾市民病院事務局とも情報共有しており、これまでの体制の中でも市民のために不断の努力が続けられていると認識している。一方で、指定管理者制度の導入や特別委員会の設置については、厚生環境委員会だけで結論を出せる内容ではなく、執行部や市議会全体の方針や判断が重要となる。そのため本委員会では、職員の待遇確保や老朽化対策といった西尾市固有の課題抽出を第一歩として、執行部と建設的かつ前向きな対話を重ねながら、市民にとってより良い市民病院の在り方を模索していく。	厚生環境 委員会
12	亀岡市のCO2を削減するための焼却には、ある程度高温となる可燃物が必要だが、その火力をどのように補っているのか。	亀岡市の資源循環推進課に問い合わせたところ、亀岡市では、基本的には助燃いたしておらず、例外的に炉の立ち上げの際など助燃が必要となる場合に限り、灯油を用いているとの回答を得た。また西尾市クリーンセンター焼却施設においても、質問にあるような「高温となる可燃物」の使用はありません。可燃ごみの燃焼により排出されるダイオキシン類などの有害物質排出抑制のための運転制御等を実施している。 現状のCO2排出抑制対策としては、ごみの分別の推進や剪定枝等の再資源化を行うことで、焼却する可燃ごみ自体の量を減らすことに注力している。また、現在整備を進めている広域ごみ処理施設においては、高効率発電・省エネ・自然エネルギー活用によりCO2排出量を最小化し、認証最高水準の「ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビルディング）」の取得を目指している。	厚生環境 委員会

議会報告会 質疑・意見一覧

整理 番号	質疑・意見	回答	委員会
13	<p>プラゴミゼロについては、既に西尾市でも市民による活動が各地で行われているが、西尾市議会として本気と覚悟ある明確な高い目標を市全体に対して表明していく予定はあるか。</p>	<p>ご指摘のとおり、プラスチックごみの削減については、すでに西尾市内各地で市民の皆さんによる主体的な活動が進んでおり、その取組は高く評価すべきものだと考えている。それと同時に、市民の努力に任せるだけでなく、市全体としてどこを目指すのかという明確な目標を示すことが、市または市議会の責任であるということを経験で感じた。</p> <p>現時点で具体的な数値目標を公式に掲げているわけではないが、今後は新たな条例制定も視野に入れ、会派を超えて協力しながら、本気と覚悟のある目標を市全体に示していくことを検討していきたいと考えている。</p>	厚生環境 委員会
14	<p>堺市が取り組んでいる重層的支援とは何か。</p>	<p>近年では市民が抱える「困りごと」が複雑かつ多様化してきたことを背景に、高齢・障がい・子ども・生活困窮などの分野ごとに分かれていた支援を“重ねて”つなぎ、どんな立場、課題をお持ちの方でも、切れ目なく支援するための仕組みである。</p>	厚生環境 委員会
15	<p>学校給食について、無償化に伴い、質の低下が心配。保護者の自己負担により、有機米等の導入を行うべきでは。</p>	<p>現在、西尾市では、学校給食摂取基準を満たした給食の提供に必要な給食単価を設定した上で、給食費だけでは足りない費用を、市が公費負担して、給食の質の維持に努めている。無償化を実施する場合においても、給食の質の低下を招かないよう市に求めていく。</p> <p>「保護者の自己負担により有機米等を導入すべきではないか」というご意見については、保護者の意見を聞きながら、慎重に考える必要があると考える。</p> <p>有機農産物や地場産物の活用については、環境への配慮、食育の観点からも重要であり、今後も可能性を検討していくべき課題だが、導入にあたっては、保護者負担の在り方、安定供給、コスト面などを総合的に検討する必要があるため、他自治体の事例を参考に市へ要望していく。</p>	文教交流 委員会
16	<p>泉大津市の給食の向上について、特記事項欄に「給食費の値上げをせず質の向上を実現しており、その財源確保の工夫も参考になった。」とあるが、具体的にどのような工夫をしていたのか。また例として、西尾市において、給食費の値上げをせず、質の向上をするには、どのような工夫ができるか。</p>	<p>泉大津市では、市場価格の影響を受けにくい「生産地と消費地を直接つなぐ食のダイレクトサプライチェーン」を構築し、その構想に賛同した全国9自治体と農業連携協定を締結している。市の予算で連携自治体から食材を直接購入し、学校給食等に活用することで、給食費を上げることなく、安定的な調達と質の向上を実現している。</p> <p>西尾市においても、給食費を据え置いたまま質の向上を図るため、地産地消の推進や献立の工夫など、できる限りの取組を行っている。一方で、近年の物価高騰や食材価格の変動、アレルギー対応や衛生管理の高度化などを考えると、給食費を上げずに、さらに質の向上を図ることは、現場としては非常に難しい状況にあるとの認識も示されている。</p> <p>今後については、現場の負担や実情を十分に踏まえながら、他自治体の事例も参考にしつつ、段階的に検討していく必要があると考える。</p>	文教交流 委員会

議会報告会 質疑・意見一覧

整理番号	質疑・意見	回答	委員会
17	<p>学校給食に力を入れ、自校方式の推進は理解できたが、徹底したアレルギー対応の内容をもう少し聞きたい。どのようなか。</p> <p>本市の場合、自校方式では充分に対応できないため、センター方式に移行させるようになっているが、泉大津市ではクリアになっているのか。</p>	<p>泉大津市のアレルギー対応は、卵に対する除去食対応のみ行っている。献立作成の段階で、アレルギーの原因となり得る食材をできる限り使用しないよう工夫した献立を基本として提供しており、個別に食べられない食材がある場合には、その分について家庭から持参する対応を取っている。</p>	文教交流委員会
18	<p>泉大津市の発表について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食は教育の一環 ・地域に農業との連携、生産者の顔が見える給食 ・アレルギー対応→きめ細やかな <p>どれをとっても素晴らしい考え方ですが、これらほとんどが、現在の西尾市でも行われていることを知られていますか。財政難でセンター方式を検討しているようだが、西尾市の給食がいかに素晴らしいかを理解されていますか。よく調査の上、お検討をお願いしたい。</p>	<p>ご指摘のとおり、西尾市においても、学校給食を教育の一環として位置づけ、西尾産・愛知県産の食材を優先的に購入するなど、地産地消の取組は行っている。一方で、泉大津市のように、生産者の顔が見える給食という点については、現時点では十分に実現できていない状況であることも、職員から確認した。</p> <p>また、学校給食の提供方式の検討については、市からは、学校給食運営協議会の答申（令和7年9月）を尊重しつつ、保護者等の意見も聴きながら来年度以降の方針を決定していくと聞いている。学校給食の提供方式は、財政面のみで判断するものではなく、アレルギー対応の確実性や衛生面の徹底、コスト面など、総合的に考慮する必要があると考えている。</p> <p>今回の泉大津市の事例を通じて、本市がこれまで積み重ねてきた給食の良さを改めて整理するとともに、生産者との関係づくりや情報発信の在り方など、今後さらに工夫できる点について、丁寧に調査・検討していく必要があると考える。</p>	文教交流委員会
19	<p>豊中市の居場所づくりについて</p> <p>中高生の学校後の居場所づくりの取組はあるか。</p>	<p>豊中市では、中高生の学校後の居場所づくりについて、青少年健全育成の観点から、公共施設等を活用し、誰もが気軽に立ち寄れる居場所を設けている。そこでは、学習に限らず、自由に過ごすことができ、大人が関わることで、孤立の防止や早期の相談・支援につながる仕組みが整えられており、学校や福祉部門とも連携し、支援が必要な場合には適切につなげる体制が取られている点が、豊中市の特徴だと認識している。</p>	文教交流委員会
20	<p>尾道市のPPP事業を成功例とするなら（以前より私は推奨）PFI事業に反対する理由が解らないが、説明を求む。</p>	<p>PFI事業そのもの、すなわち民間の資金・経営能力・技術力を活用し、効率的かつ効果的に質の高い公共サービスを提供するという本来の手法を否定するものではない。</p> <p>反対しているのはPFIという手法そのものではなく、「本市で検討されていた方式・内容」であり、PPP・PFIいずれの手法であっても、地域特性や公共性を十分に踏まえた慎重な検討が必要であると考えている。</p>	文教交流委員会

議会報告会 質疑・意見一覧

整理番号	質疑・意見	回答	委員会
21	西尾市での現在の雨水対策はどうなっているか。	本市も市内様々な場所において、大雨や集中豪雨により短時間で浸水してしまう地域があります。現在、（仮称）西尾市雨水対策マスタープランを作成中ですので、治水上の弱点を把握し、ハード対策の目標を掲げるとともに、ソフト対策を含めた総合的な雨水対策の方針と取組内容を示す計画をしている。	経済建設委員会
22	国道23号線の西尾東インター付近に企業誘致が進められているが、市内において新たな企業誘致の候補先はあるか。	西尾東インターの南北を走る県道沿いには、まだ一部候補先はある。しかしながら、現在その他の候補先は苦戦をしている。幡豆地区にある県有地などをはじめ、様々な可能性を探っている。	経済建設委員会
23	委員の全てが陳情者と反対の意見であるのに、議会と市で審議を進めるのはなぜか。反対の意見しかないなら陳情者と議論すべきではないか。これでは、陳情の協議と言えないのでは。議会は陳情内容を選ぶと言われても仕方がないのでは。	各委員会に付託される請願・陳情に対する審査の在り方への質問だと思う。現在、委員会では、最初に陳述人に陳情内容を5分間、陳述していただいている。議員は陳情内容について、陳情者への質問や、市に説明を求め審査をしている。誰に質疑するかは、個々の委員の判断によるものであり、議会と市で審議を進めているということではない。	議会報告会運営委員会
24	議員定数削減を	現在、議会の活性化や議会運営に関する事など議員定数削減も含め議会改革検討委員会で議論している。	議会報告会運営委員会
25	今回の議会報告会は行政視察報告会で終わりか。別途予定されているか。市政一般に関して、市民が特に関心を寄せているPFI問題のその後（賠償金関係）について、議会が現在把握している、これまでの経過・状況を是非、聞きたい。	例年ですと、3月定例会の新年度予算審議の中から市民に関心のある主要なテーマについて、議会報告会報告を開催し、市民と意見交換をしてきた。今回の令和7年度は6月に市議会議員選挙があったため、年度内に行えるテーマとして、各委員会の視察報告とした。次回の令和8年度議会報告会は、PFI問題も含め市政全般のどの内容を報告会でテーマにするか今後、議論する予定。	議会報告会運営委員会